

社会福祉法人佛子園、三草二木西圓寺、Share金沢、B's行善寺など、さまざまな人が共生できるコミュニティ拠点を精力的に運営している雄谷良成師(蓮昌寺住職)の記念講演「三草二木に見る〈ごちゃませ〉社会の可能性」(平成29年度第50回中央教化研究会議)は示唆に富むものだった。

「ごちゃませ」というのは、そういった意味では、先ほどの障害のある人、認知症の人、そうでない人も含めて、「全ての人には役割がある」と思ったのです。ところで、フィジーという国に行きまして、幸せ探しに行ったんです。日本のGDPの十分の一ぐらいの国ですけれども、非常に幸せ感が高い。ここは入所施設がないのです。(略)じゃ、どうやってその人たち(認知症や障害者、高齢者)は生きているのかというと、地域みんなで見守っちゃうんですね。(略)そんなことできる国の人に、僕が生意気にも「全ての人には役割を持っている」という話をしたら、「ミスター雄谷ね、それは我々にはちょっと違うかもしれないね」という話をされたのです。「どういう意味だ?」と聞いたら、こんな風に言われました。「全ての人が機能しているっていう感じだと思うよ」という答えを聞かされました。三草二木、全ての人が機能しているという事。私も生まれたらすぐ施設の中にいましたので、半世紀以上そういった現場にいながら、お寺と福祉とを感じながらやってきたつもりですけど、「ああ、また殴られたなあ」というのがこの一言でした。

この講演のしばらくのちに金沢を訪ね、雄谷さんに福祉施設を案内していただいた。他宗のお寺だった三草二木西圓寺の堂内では、地元の人々が食事をしながら話しこみ、福祉施設は地域にとけこんでいた。

講演で紹介されたハーバード大学のニコラス・A・クリスタキス氏の研究が興味深い。

どのような研究かというと、1マイル圏内、1.6キロ半径の中の地域においては、誰かが「幸せだ」と言うと、その知り合いは、15%ぐらいは何となく幸せに

なるというデータ。知り合いの知り合いだと10%、知り合いの知り合いの知り合いだと6%ぐらいが幸せ感を受け取ることが出来る。(略) 自分と全く面識がない、会ったことのない人間が「幸せ」と言ったら、その人の影響を受けるなんていうことを皆さん信じられますか。(略)

人が縁で、縁起でつながっていくということはわかる。誰かが幸せと言ったら、幸せはやっぱりつながっていくのだろうと。(略) いろんな人が地域の中にいる。知っている人も知らない人も、その人の言動が少なくともお互いに影響しているという科学的データ。そして何よりも、この中には認知症の人、あるいは元気な人、あるいは障害がある人、あるいは独居、1人で住む高齢者の方もいます。もし独居の方が孤立してしまえば、幸せ感は途切れてしまう。あるいは障害のある人が差別を受けて地域で厳しい、幸せじゃない状況になったとしたら、それは不幸せが伝播していくことになるということ、これは実は、地域というものを我々はどう捉えていくべきかということの1つの大きな流れなのではないか。

令和2年(2020)、COVID-19の蔓延を経験し、人とはいかに悪意と差別にみちた生きものであるかを思い知らされた。東京からの転入届を拒否した自治体、県外ナンバー車のいやがらせをふせぐために町内在住を示すマグネットシートを配布した自治体もあった。「自粛警察」の横行に怯えた人もいた。「幸せ感は途切れ」、「不幸せが伝播していく」社会ではなかったか。

クリスタキス氏の実験から、法華経の「五十展転随喜の功德」を想起した。生きるよろこびが人から人へと伝わっていく社会づくり、それこそが「立正安国」ではないか。「ごちゃまぜ」社会に生きよう！



西園寺



案内板